

## 第68回海洋開発分科会における主な意見（論点更新案に対して）

海洋地球課

- ✓ 海洋科学技術をめぐるエコシステムをどのように強化していくかが重要な視点。  
例えば、水産資源とネガティブエミッション技術の関係や、AUV技術開発、気候変動の問題含めて、世界に貢献するような海洋科学技術に関わるスタートアップが日本から創出されるようなサイクルを作ることで、若い人材の参入にもつながり、海洋全体としての大きな動きにつながっていく。
  
- ✓ 日本の海洋科学技術で世界に飛び抜けているものは何かを把握しておくことが重要。
- ✓ 国外と比べて、必要であるのに遅れているポイントは何かを明確にすることも重要。
- ✓ 国内及び国外から我が国の海洋科学技術に期待されていることは何かということをも明らかにした上で各論に入っていくべき。
- ✓ 流行っていることだけに投資するのではなく、財源も国のみに頼らない方法も含め、海洋に関する基礎的な研究を捨てずに維持していくことが重要。
- ✓ 現行の論点案では、いろいろな時間スケールのものが混じっているため、どの時間スケールでどこまでの達成を見込むのかを整理・焦点化した方が良い。
- ✓ コロナやロシア等の情勢など、突発的な事象にどのように柔軟に対応していくべきか。この2年間で経験したことからの展望もどこかで入れたら良い。
  
- ✓ 観測技術に関し、AUVやASVといった自律的かつ小型な機器でデータを観測することが非常に重要になってきている中で、工場内搬送ロボットのミドルウェア等の基盤技術を取り入れつつ、効果的・効率的に開発を進めるという視点も重要。
- ✓ ASV、AUVを含め、残念ながら日本は世界のトップランナーではないが、この分野は省力化とか自動化とか、それから常時測るということを考えたときに非常に重要。
- ✓ データの共有にあたり。通信量も向上していく必要がある。通信は開発要素もまだまだあり、大学等でもやるべきことがたくさんある。

- ✓ 衛星やドローンも含め海洋のデータを、データの複合分析を進めていくことが重要。
- ✓ リアルタイムの様々なデータを複合的に解釈、解析することで、海洋で何が起こったかの実態を理解する機能が必要。海洋関係者の気づきについて考える仕掛けが必要。
- ✓ MDAを推進する一方で、社会・経済活動を推進する、海洋の利用を進めるという意味合いでは、データの共有化も含めて、海洋空間利用の在り方が非常に大事。
- ✓ 解決すべき問題として、気候変動や生態系劣化、災害に加え、海洋利用の拮抗に伴うコンフリクトとかセキュリティをどうするのかという点がある。
- ✓ 海域の30%を海洋保護区として設置をする目標採択を見据え、日本海域の海洋空間計画をさらに拡大して、科学に基づいた管理の仕方が非常に重要になる。
  
- ✓ 一次産業、海洋の漁業とか水産資源が非常に今枯渇しつつある中で、身近な一次産業、農業・漁業等が持続可能となるように海洋観測技術やデータの分析結果が生かされることが重要。
- ✓ 気候変動、温暖化や、生態系に関わる影響に加えて、海面上昇が非常に大きな問題。我が国周辺及び沿岸の観測を強化すべき。
- ✓ 海面上昇を完全に解決することはできず、社会がそれに適応していくことも必要。
- ✓ 日本は、小さくて多様な沿岸域を持つことが一番の特徴。日本ならではの、国内の沿岸のモニタリングのネットワークづくりがとても大事。
- ✓ 国内の連携に当たり、違う場所(沿岸域)のネットワークづくりの視点があるとよい。例えば、センサー高度化よりも、頑丈で安いセンサー作りといった観点にもつながる。
- ✓ 地震・津波等の予測研究を行うことも重要だが、予測研究につなげるための国の観測モニタリング体制を作るといった視点が重要となる。
- ✓ 海洋生態系全体の包括的な理解にとどまらず、水産資源、すなわち国民への安定的な食糧供給との両立、さらには、水産資源関係の保全から一步踏み込んで、ネガティブエミッション含めて、もう少し包括的なアプローチを考えてはどうか。